

連載：原点

精進

犢橋高等学校 福田 恵理子

着任し何も分からない中で5ヶ月が経ちました。初めて教壇に立ったとき、生徒の視線を浴びながら感じたのは、責任の重さと大きな可能性でした。これから多くの生徒に数学を教え、一緒に成長ができるという喜びと、これから直面するであろう困難に対する不安が交錯する毎日です。そんな中で、自分自身の「原点」を改めて見つめ直すことが大切だと感じています。

私は学生時代、数学が得意だったわけではなく、関数や図形の問題に頭を悩ませ、先生や友人に教わってばかりいました。しかし、数式の中で「なぜこのようになるのか」という苦悩を楽しめる時間があることや、難しい・分からないと思う問題が、一気に「分かった!」と開放感に繋がることが面白く思えてくるようになりました。解答へと導く過程に魅力を感じ、それを美しいと感じました。今考えると、このような気持ちが私の「数学の原点」だったと思います。

また、授業を進めていく中で、授業の進め方、教材研究、プリントの活用方法、板書の仕方、そして何より生徒の実態を把握することの難しさを感じました。生徒一人ひとりがどこで難しさを感じ、つまづいているのかを見極め、そのつまづきの解消方法を考え、適切なアプローチを選択することが大切だと気付きました。これらが教師としての私の責任であることも同時に分かりました。生徒たちの目の色が変わり、「分かった!」「できた」「もっと数学をやりたい」という気持ちを抱かせたとき、私は大変嬉しく、教師のやりがいに繋がることを実感しました。毎時間、課題や反省が多くあるので、周りの先生方にご指導いただき、教材研究を重ねながら生徒とともに成長できるよう学び続けたいです。さらに、数学の教え方には様々なアプローチがあります。GeoGebraを使って変化の様子を見せたり、身近な実物を使って視覚的に問題を説明したり、日常生活の事例を交えて話すことで、「数学が身近で実用的なものであることが分かった!」と振り返りシートに書く生徒も多く、今後も続けていきたいです。数学が「難しい」「堅苦しい」と感じられがちな科目であることを意識し、本時の目標を明確にしながら、生徒たちにとって楽しさや興味を持ちやすい授業を目指したいと思います。対話的な場面を多く設け、授業の中で生徒たちと一緒に笑いながら考えることができるような、そんな環境を作りたいと思っています。

これからも以上の想いを大切にしながら、数学の面白さを生徒たちに伝え、生徒と一緒に学び続けていきたいと思っています。そして、数学を通じて、「考える力」や「論理的な力」を育て、生徒の人生の中で何かしらの役に立つ知識や経験を提供できるよう努力していきたいと思っています。その過程で、私もまた成長していけることを楽しみにしています。教師としての道は始まったばかりですが、この「原点」を忘れることなく、これからも一步一步、精進していきたいです。